

🌲 林業にかける ～想いを箱(Box)に込めて～

私は都市部の出身で、アカデミー入学の前は、ソフトウェア開発技術者として会社に勤務していました。まったく畑違いですが、これまでの経験が他の分野で活かせないかと思い、林業の講座を選びました。

ビジネスにおいては、人が抱える問題がチャンスで、それに対する課題がビジネスの種だと言われます。在学中、林業における様々な問題や課題について学んできました。その中で、自分が取り組んでいきたい課題が2つ見つかりました。1つ目は、QCD(品質、コスト、納期)レベルの向上。2つ目は、森林所有者の所有林に対する経営的関心の向上です。卒業後は、これらの課題に集中すべくBoxBoxを立ち上げました。プレゼントを箱に入れて包装し誰かに渡すように、人の役に立つ「もの」や「こと」が詰まった箱(Box)を渡したい。それがBoxBoxの由来です。

現在の取り組みですが、LMV(Logging Management Visualizer)という生産管理システムを開発し、森林組合や企業向けに販売しています。また、現場感覚を身に付けるために伐採業務も請けています。そして、森林所有者、特に若い世代をターゲットに、森林の管理や経営、伐採技術に関するサポートを行っています。

卒業後も林業再生講座の先生方には、様々な面でアドバイスをいただき、とても感謝しています。今後ともよろしくお願いします。

林業再生講座11期生 坂本 陽 (BoxBox 主宰)



🏠 木造建築構造設計で地域材活用のサポート

アカデミーの木造建築講座を卒業後は、地元の愛知に帰り個人で構造設計事務所を営んでいます。活動は木造建築物の構造設計だけでなく、課題研究で取組んだような、国産材や地域材の活用が広まるように建築士、工務店やプレカット工場の方々に向けて木質構造設計の普及活動をアカデミーの木造建築スタジオと共に行っています。

近年は、国の政策による木造の大型建築物への取り組みから、木造大型商店の建築や木造校舎の耐震改修などが増えています。また、重要文化財や古い木造住宅を改修して残すために耐震設計が必要とされています。このような改修は、制約が多いために構造設計が難しくなりますが、また楽しい面でも有り、少しは社会貢献ができていのかと思います。

今後は、木質構造設計が更に普及しやすいように、講習に加えて、設計ツールの開発や、地域材が使い易い製品開発や、工法開発に携われるような活動ができればと考えています。

木造建築講座8期生 相知 正人 (木の建築オープンラボ 主宰)



森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



自然体験活動指導者
インタープリター養成



木造建築



ものづくり

森と木のエンジニア科



(森林・林業、木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

仲間づくりで田舎暮らしをデザイン

卒業後は週3日、地元教育委員会で森林環境税事業の自然文化調査をしています。野山を歩き巡る仕事です。アカデミーで学んだ里地里山の自然、人の暮らしとの関わりや文化、森林生態学が大いに役立っています。残りの週4日で、地元を中心にさまざまな活動に関わっています。地域づくりNPO・山県楽しいプロジェクトの一員として山村活性事業部・やまがた舎の活動をしたり、過疎地域の資源を活かした交流事業を行う山里生活体験推進委員会をサポートしたり、アカデミーの先生方や学生さんらとプロジェクトを共有したり、郡上の山と川の学校で季節限定のアルバイトスタッフをしたり…なかなか忙しくも楽しい毎日です。

在学中から始めた、Uターンや地元の若者と地域の師匠や子どもが取り組みと語らいを共有する場づくりのプロジェクト・やーまんみちくさ小屋も、薪割りや伝統芸能や農林業の活動を通じて、仲間が増殖中です。休日は家族や友人と過ごしたり、地元の師匠らと地蜂とりに出かけたり。妻や子どもたちの笑顔も明るく、父母や地元の方々に助けられながら生活もなんとかなっており、なにより入学前にしていたサラリーマンの頃には無かった充実感と幸福感を味わっています。

山村づくり講座11期生 山田 哲也 (NPO法人山県楽しいプロジェクト スタッフ)



木の暮らしのはじめの一歩の仕組みづくり

アカデミー卒業後、認定NPO法人 日本グッド・トイ委員会で【ウッドスタート】という取り組みに従事しています。【ウッドスタート】とは、暮らしの中に木を取り入れる『はじめの一歩』を提案し、「この地で育った木を選びたい。」と思えるようなキッカケをつくる取り組みです。一例を挙げると、赤ちゃんに地域材を使って地域の木工職人が作ったおもちゃをプレゼントする取り組みがあります。私は、その地域の森林からおもちゃを手渡すところまでをつなぐコーディネートをしています。

入学前に通っていた自由学園で、森林や木に関わることを多く学んだことから、更に専門的に学ぶためにアカデミーに入学しました。そして、森林・林業・林産業における課題を学ぶ中で、国内に流通している子どものための木製品に国産の木材がほとんど使われていないことが分かり、自分がモノを作る側に回るのはではなく、仕組みを作る立場となって解決しようと思ったことから、この仕事に励んでいます。専門的且つ多角的な視点を持ったアカデミーの学びが、日々活かされています。

ものづくり講座 11期生 遠藤 智史
(認定NPO法人 日本グッド・トイ委員会 ウッドスタート事業部)



毎日楽しく森の手入れ

私は2013年春にエンジニア科を卒業して、グリーンクリエイティブ株式会社に就職しました。会社での主な仕事は植林や除伐、下刈り、枝打ち等の保育・管理です。どの仕事も学ぶことが多く、特に作業スピードでは職場の先輩との力の差を痛感しています。このように、まだ仕事をするとするよりは勉強をしているようなものですが、毎日楽しく働いています。

毎日の仕事の中で、アカデミー在学中に学び得た様々な知識・技術が役立っています。特にチェーンソー・刈払機の目立てやメンテナンス、手工具等の道具に関する知識・技術は、実務を行う上で欠かせないため、きちんと身につけておいて良かったと実感しています。今後も知識・技術をさらに高め、もっと効率よく仕事ができるように頑張っていきたいと思います。

森と木のエンジニア科11期生 下野 恭祐 (グリーンクリエイティブ株式会社)



アカデミーでの学びの集大成
課題研究公表会 2月18日(火)~20日(木)

詳しい予定は2月頃HPで公開。
どなたでもお聞きいただけます。

森と木のエンジニア科 入試日程

一般入試2 2014年 1月25日(土)
一般入試3 2014年 3月 8日(土)

※一般入試3は一般入試2終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

森と木のクリエイター科 入試日程

一般入試3 2014年 1月26日(日)
一般入試4 2014年 3月 9日(日)

※一般入試4は一般入試3終了後、定員数を満たしている場合には実施しません。

インフォメーション

岐阜県立 森林文化アカデミー

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地

tel : 0575-35-2525 fax : 0575-35-2529

mail : info@forest.ac.jp

ホームページ : <http://www.forest.ac.jp>

アカデミーブログ : <http://gifuforest.blogspot.jp/>

facebookページ : <http://www.facebook.com/forest.academy>

※最新情報はホームページをご覧ください。